国連世界観光機関駐日事務所
代表
本保 芳明
HONPO YOSHIAKI

「京都が日本にあって良かった」は門川大作前京都市長の決まり文句だが、「鶴雅グループが北海道にあって良かった」と心から思っている。それは、鶴雅グループのホテルは「作品」だとの大西さんの言葉通り、それぞれのホテルが作品として輝き、内外の旅行者を惹きつけているからだ。そして、それ以上に、グループ全体が、北海道の観光、そして文化のイメージを紡ぎ、語りかけ、地域づくりのプロモーターとしての宿泊事業モデルを創造し、革新し続けてくれているからだ。

作者の想いが高く深く、そして、その想いを実現する技がなければ作品は誕生しない。大西作品の一つに足を踏み入れれば、そこには空間美が広がる。阿寒湖を眼前にしたカウンターバーは心憎い。ロビーのアイヌ彫刻は傑作揃いだ。彫刻家の育成に注いだ熱意、時間、私財は厖大で、選ぶセンスが良い。作品には当然ながら作者の好みが現れる。格調の高いオーディオ、ワインのセレクションは、大西さんの趣味そのものだ。これに痺れる。これら全てを具現した経営力は瞠目に値する。

これらの作品群が、高品質な観光サービスの舞台となって、鍛えぬいた食とサービスとともに、内外の常連客を惹き付け、北海道観光のレベルとイメージを引き上げ、競争力を高めている。ここで終われば、宿泊業のサクセスストーリーに過ぎないが、鶴雅グループの原点が、地域づくりにあるところこそ、最も評価するところだ。アイヌ彫刻蒐集は、アイヌ文化の支援であり、アイヌ文化を起点とする地域文化の振興だ。ホテルを原点として、飲食店、地域文化の展示施設、スキー場を展開し、ついにはワイナリーにも手を染め、地域の観光資源づくりの主役となっている。大学での観光人材教育も長年にわたる。その経験と知見の全てを結集、昇華させて、宿泊事業者による地域づくりのモデルとして世に問い、国の有識者会議、団体、地域をリードして来た功績は偉大だ。これらは、大西雅之という希代のリーダーあってのものだが、先代がグループ70年の基礎を築き、グループの全員がこれを支えてきたことを忘れてはいけない。北海道のために、グループの持続的な革新と発展を強く願う。